

オーチス・エレベータサービス株式会社 東京都江東区越中島 1-2-21	ブレーキ解放ケーブル調整要領書(SMART-J)	JPN NORM	
		JPN 0-008501	発効日: 2012-07-30
Elevators & Escalators		Version: 01	Page 1 of 8

目次	ページ
1 目的	2
2 適用範囲	2
3 説明	2
4 配線規則	2
5 作業前準備	3
6 ブレーキ解放ケーブルの配線経路	3
7 ブレーキ解放ケーブルの調整	6
8 確認	8

本書の記載内容は予告なく変更される場合があります。最新版につきましては弊社ホームページ ([URL: http://www.oesc.co.jp/Pages/Home.aspx](http://www.oesc.co.jp/Pages/Home.aspx)) をご確認ください。

Copyright © 2016 Otis Elevator Service Company All rights reserved.

このマニュアルに関するすべての著作権および知的所有権は、オーチス・エレベータサービス株式会社(OESC)に帰属する。OESC社員または同社正規代理店が、OESCの利益を目的としてのみ使用するものとする。形式や目的を問わず、OESCの許可なくこれを複製・翻訳・複写したり、データ処理ユニットに保存することは著作権の侵害とみなされ、法的措置の対象となる。

1 目的

本要領書は、Schindler SMART-Jのブレーキ解放ケーブルの調整要領を明確にする。

2 適用範囲

本要領書は、Schindler SMART-Jのブレーキ解放ケーブルの調整及びその固定に適用する。

3 説明

MRL用巻上機には、ブレーキを昇降路外から手動で解放する装置を設けることが建築基準法で求められている。[H12 建告 1413 第1第三号ホ (イエローブック 1.3-8)] 更に同告示が改正され、ブレーキ解放ケーブルを建物などに固定することが求められることとなった。SMART-Jでは、昇降路頂部付近に設置した巻上機のブレーキに取り付けたブレーキ解放ケーブルを、最上階乗場に設置した制御盤内のブレーキ解放レバーで操作することにより巻上機ブレーキを解放する構造となっている。

4 配線規則

ブレーキ解放ケーブルの配線規則は以下とする。この内①曲げ半径が最も配線抵抗(ワイヤーを引いた時の重さ)に影響を与えるので、極力大きな曲げ半径となる様に配線経路を取ることが肝心である。これは、自動車を洗車する時にゴムホースが1ヶ所でもきつく曲がってしまうと、とたんに水がよく流れなくなってしまうのと同じである。

①最小曲げ半径が 120mm以上のこと。(曲げ半径が大きいほど好ましい)

②曲げ回数が 4 回以下のこと。(曲げ回数が少ないほど好ましい)

③インシュロックで配線固定する箇所が 3 ヶ所以上のこと。

重要注意事項



- ブレーキ解放装置の不適切な設置は、閉じ込め発生時などの必要時にブレーキの手動解放を妨げるばかりか、通常運転時における戸開走行(UCM)発生の原因になる可能性がある。必ず本要領書を良く読んで施工し、施工後にはよく確認をすること。



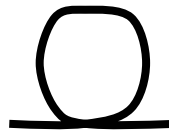
- 手動解放ワイヤー設置後や手動解放ワイヤーを操作した後は、8ページ記載の確認作業を必ず行うこと。また、確認作業後には手動解放ワイヤーを操作したり、手動解放ワイヤーの経路を変更しないこと。



禁止事項

1. ブレーキ解放ケーブルを束ねないこと。

×ケーブルを束ねないこと。



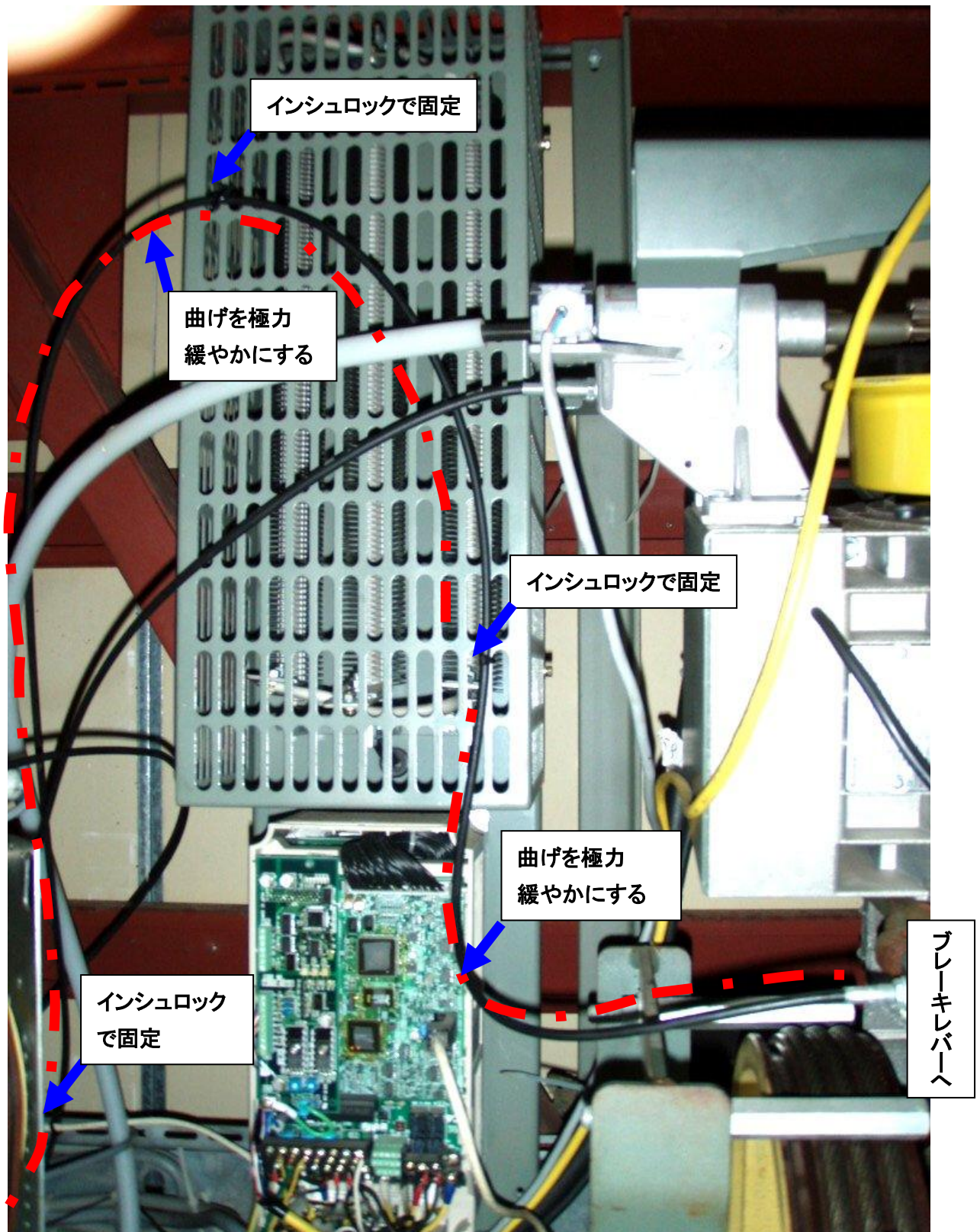
2. ブレーキ解放ケーブルを曲げる箇所では、曲げ半径R=120mm以上のできるだけ大きなRで曲げ、急な曲げ(小さな曲げ半径)の箇所を作らないこと。
3. ワイヤーを曲げる回数をできるだけ少なくすること。(4回以下)
4. ワイヤーが主索やガバナロープなどに触れない様に配慮すること。

5 作業前準備

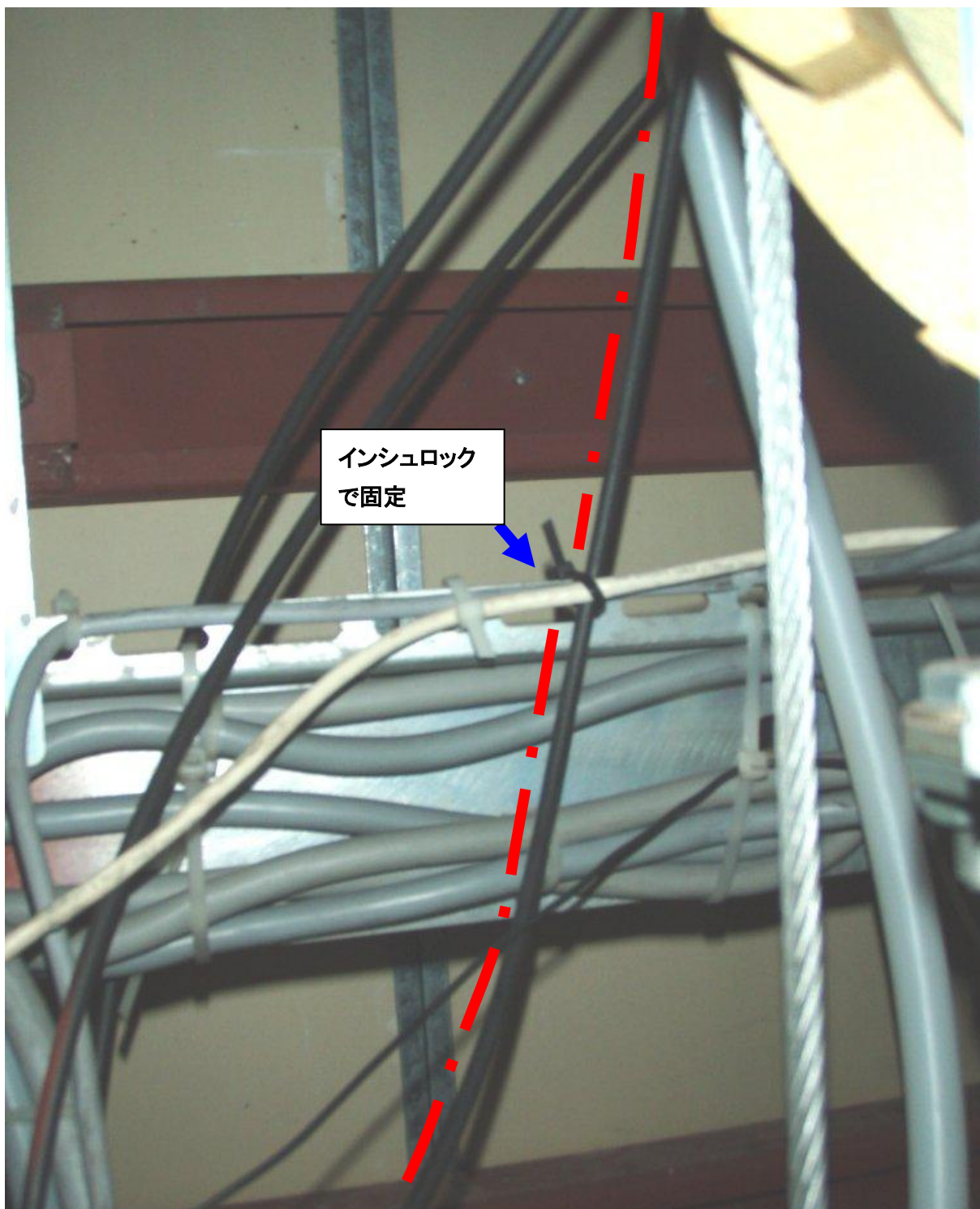
作業を始める前にブレーキのエアギャップが正しい寸法であることを確認し、必要であれば調整する。

6 ブレーキ解放ケーブルの配線経路

ブレーキ解放ケーブルの標準の配線経路を以下に示す。現場仕様によりレイアウトが異なる為、必要に応じ経路を変更してもよい。その際は 4.配線規則によりワイヤー経路を決めること。



※【重要】インシュロックは必ず5mm程度の隙間を空けてブレーキ解放ワイヤーを結束すること。

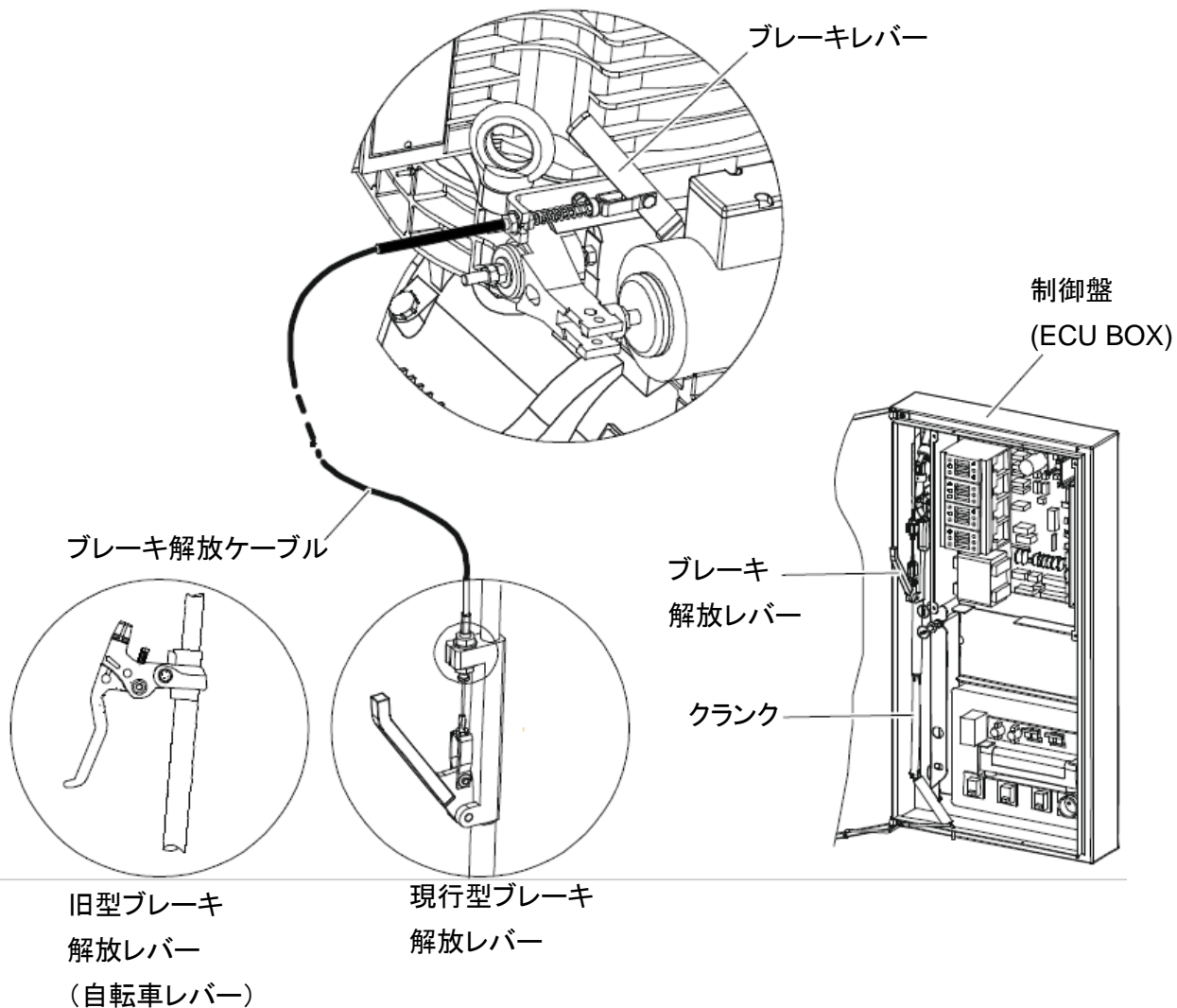


インシュロック
で固定

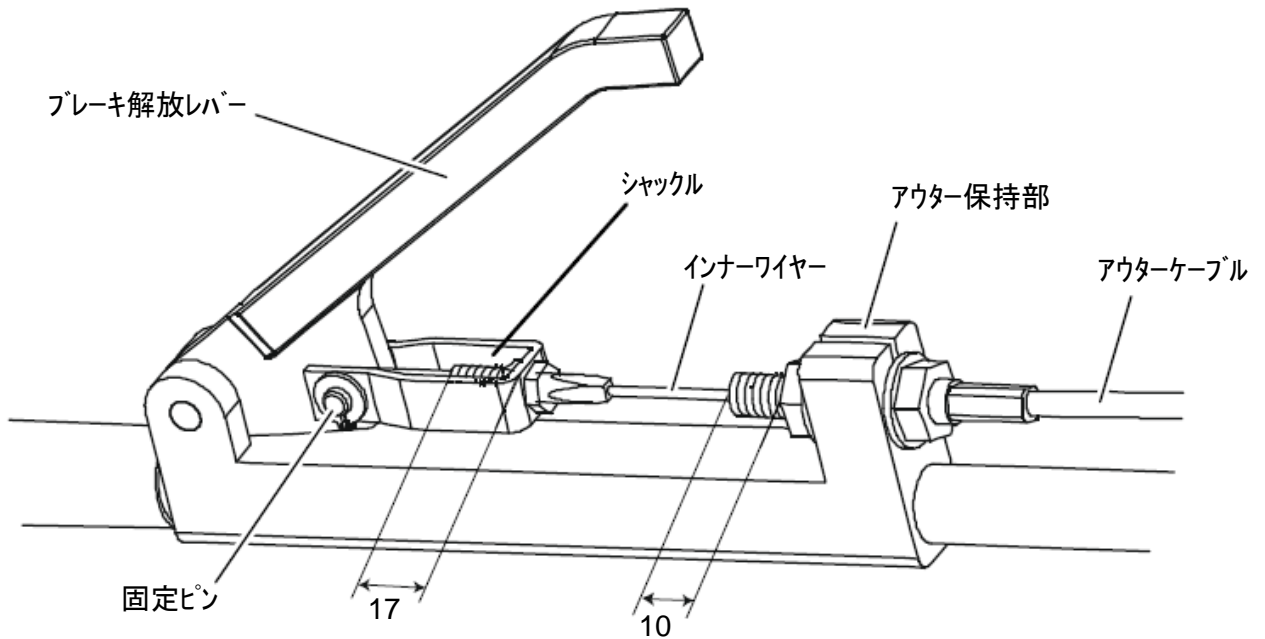
ブレーキ解放レバーへ

7 ブレーキ解放ケーブルの調整

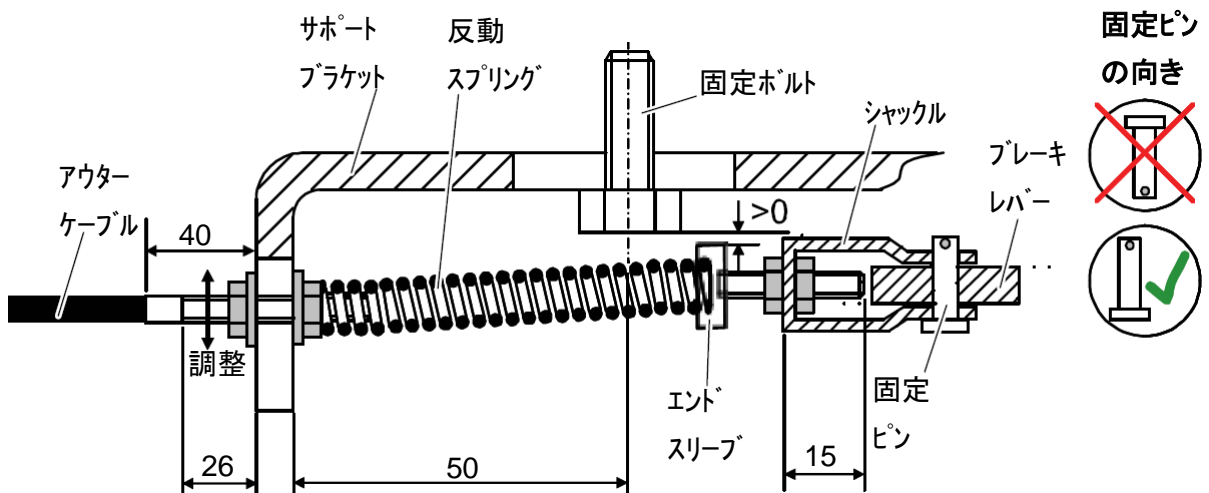
- ①ブレーキ解放レバーが現行型であることを確認する。ブレーキ解放レバーが旧型(自転車レバー型)の場合は現行型ヘクランクごと交換すること。



②ブレーキ解放レバー側のブレーキ解放ケーブルを下図に従い調整する。



③ブレーキレバー側のブレーキ解放ケーブルを下記に従い調整する。ブレーキを解放するときにエンドスリーブと固定ボルトが干渉しない位置となる様にアウターケーブルの取付位置を調整する。



8 確認



ブレーキ解放ケーブルの調整後に下記を確認すること。

- ブレーキがスムーズに解放し、復帰すること。(ブレーキ解放手順は別途標準資料を参照のこと。)
ブレーキ解放レバーを操作してブレーキ解放を正常に行えない場合は、前記寸法を調整してブレーキ解放が正しく行える様にする。ブレーキ解放ケーブルがスムーズに動かない場合は結束バンドを順次切断して抵抗となっている箇所を特定し、作業をやり直すこと。
- ブレーキ解放レバーを格納後にブレーキのエアギャップが正しい値であることを確認すること。もしエアギャップが正しく無い場合はブレーキ解放ケーブルの調整をやり直すこと。

！！正しく復帰していないと戸開走行など重大事故を招く恐れあり！！

！！上記確認作業後にワイヤーの経路を変更しないこと。

万が一、経路を変更した場合は再度確認作業を行うこと！！

以上